

PORT OF THE YEAR 2018

情報誌「港湾」の読者が選ぶ ポート・オブ・ザ・イヤー 2018に 紋別港 [北海道] が決定！

(公社)日本港湾協会では、みななどに関する優れた実績や活動により、わが国の港湾・臨海部の活性化に寄与し、「みなとの元気」を高めた港湾をポート・オブ・ザ・イヤーとして顕彰することとしております。

「港湾」の読者の方々から投票をいただき、その投票数と推薦理由から、ポート・オブ・ザ・イヤー 2018に紋別港を選定いたしました。

ポート・オブ・ザ・イヤー 2018 紋別港

■「みなとの元気」を高めた理由

紋別港は、オホーツク海沿岸のほぼ中央部に位置し、オホーツク圏の経済をリードする水産業を下支えしつつ、発展してきた港湾です。

平成30年8月25、26日、「第11回みなとオアシスSea級グルメ全国大会」が「みなとオアシスもんべつ」で開催されました。多くの出店者が完売するなど大盛況の大会となり、北海道で初のグランプリを地元「ホタテみそ焼きうどん」が獲得し、紋別港の知名度を全国へ大いにアピールすることが出来ました。

平成29年5月16日に、北海道内第1号となる港湾協力団体として指定を受けた「みなとオアシスもんべつ運営協議会」は、「ウォーターフロントフェスティバル」や「遊びたガリヤフェスティバル」といったイベントを開催し、北海道の短い夏を盛り上げています。流氷観光で賑わう冬季には、イルミネーションで装飾する取組みも実施しており、流氷砕氷船「ガリンコ号Ⅱ」の外国人乗船客が、みなとオアシス認定前の平成24年に比べ約1.9倍になるなど活動の成果もでています。

紋別港を含む北海道6港湾の港湾管理者が連携して策定した行動計画（農水産物輸出促進計画）が、平成29年5月23日に全国で初めて認定されました。ホタテの輸出拡大に向け、これまでも販路の拡大等に努力してきましたが、農水産物輸



紋別港全景

出促進計画にもとづく屋根付き岸壁の整備により、国際競争力が増大し、輸出促進に繋がることが期待されています。

平成28年12月に、紋別港内でバイオマス発電所が営業運転を開始しました。豊富な森林資源を背景に安定供給される木質チップに加え、補助燃料となる石炭やPKS（パーム椰子殻）は紋別港から輸入されます。発電所の立地により、間伐材の集積・加工に伴うオホーツク地域林業の活性化や、年間39億円の経済波及効果、地元から新たな雇用を創出するなど、地域経済を大きく活性化しています。

このように、紋別港では、官民連携で地域の活性化に精力的に取り組んでおり、「みなとの元気」が高められました。



ウォーターフロントフェスティバル



もんべつ流氷まつり

「ポート・オブ・ザ・イヤー 2018」に選ばれた紋別港に対しては、平成31年1月23日（水）の表彰式において賞状及び楯を授与いたします。また、「港湾」3月号に同港の「みなとの元気」紹介記事を掲載します。